

競 技 注 意 事 項

本大会は、2016年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

練習は、補助競技場及び雨天練習場（使用方法について下記参照）を原則とする。投てき競技（円盤投・ハンマー投・やり投）の練習については、多目的広場を使用する。砲丸投の練習は、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみで行う。使用の際は係員の指示によって行う。

①補助競技場の使用について

レーンの使用については以下の通りである。

- ・ 1～2レーンは、周回練習のみ使用可とする。ただし、1レーンはトライアル、2レーンはジョグ練習とする。（集団ジョグは不可。）
- ・ 3～4レーンは、短距離、リレー練習を優先する。
- ・ 5～6レーンは、400mHを優先する（大会2日目まで）。
- ・ ブロックを使用してのスタート練習は、多目的広場側直走路4～7レーンとする。
- ・ 多目的広場側直走路9レーンは、女子100mH、11レーンは、男子110mHとする。
- ・ テント等を設営しての独占的な使用をしない。

②雨天練習場の使用について

- ・ ピストルの使用は禁止する。
- ・ 入場は、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止とする。
- ・ シート等を敷いて独占的な使用は絶対にしない。
- ・ ウォーキング、ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動き作り程度の練習は行ってもよい。それ以外は補助競技場で行うこと。
- ・ ウォーキング、ジョギング等は左回りとし、逆走はしない。
- ・ ハードル、スターティングブロックは使用できない。

2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。また、スパイクの本数は原則として11本以内とする。

3 ナンバーカードについて

ナンバーカードは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手はどちらか一方でもよい。

トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの右横や後方につけること。

3000m以上の種目は、別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードについては、招集所にて配布する。

4 選手招集について

①選手招集場所は第2ゲート（1500mスタート付近）とする。

②選手招集時間は下記のとおりとする。

トラック競技（予選・準決勝）		トラック競技（決勝）		フィールド競技	
開始	完了	開始	完了	開始	完了
30分前	20分前	25分前	15分前	40分前	30分前

※ただし、棒高跳については、60分前に現地で招集する。

③リレーのオーダー用紙は、招集完了時刻の1時間前までに提出すること。なお、決勝においてもオーダーの変更の有無に関わらず、予選に準じて提出すること。

④混成競技における招集は、第1日目、2日目とも第1種目の該当時刻に招集所で実施する。第2種目以降は該当種目の招集完了時刻に合わせて現地で最終コールを実施する。

⑤2種目同時に出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出ること。

5 競技について

①競技順は、プログラム記載の番号順とする。

②トラック競技のスタート合図は、イングリッシュコマンドで実施する。

③トラック競技の次ラウンド進出は着順優先とし、各組上位者のみとする。

プラス進出者の決定で同記録者が出た場合は、判定写真を拡大し細部（**電気時計 1/1000**）まで読み取り着差判定をする。その最下位で同記録者が出た場合、ハードルを含む800mまでは、レーンに余裕がある限り次のラウンドへ進むことができる。レーンに余裕がない場合は抽選して決定する。1500m以上の同記録者は次のラウンドに進出できる。

④4×400mRの第3・第4走者の待機順は、200mスタート地点を通過した順序とし、それ以後いかに順序が入れ替わろうとも変えることはできない。

⑤各レースの**不正スタートは1回目から全て失格**とする。

⑥競歩の制限時間は、最後の1周に入った時点で下記の時間を超えないこと。越えた場合は競技を打ち切る。 男子5000mW 30分 女子5000mW 35分

⑦競技者が、競技場内へ携帯電話等の通信機器やビデオ・デジカメ等の撮影装置を持ち込むことは禁止とする。

⑧競技者が、競技場内に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込むとき、「競技会における広告および展示物に関する規定」に従って、持ち込みの規制や商品名を隠す等の処置を受ける場合があるので注意すること。

⑨助力については、競技場内での助力は禁止とするが、スタンドからの助言については、競技運営並びに他の競技者の競技に妨げにならない範囲で認めるものとする。ただし、文書をもって連絡することや当該競技場所を勝手に離れることはできない。当該競技の審判員にその旨を伝えてから移動すること。

6 競技用具について

①競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、棒高跳用ポール・やりは検定において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検定は競技開始60分前に第1ゲート（ゴール付近）横の倉庫前で行う。

②練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいけません。

7 跳躍競技について

①走高跳・棒高跳のバーの上げ方（ただし、選手の記録により変更あり）

		練習							以降
走高跳	男子	155	160	165	170	175	180	183	3 cm刻み
	男混	140	144	147	150	153	156	159	3 cm刻み
	女子	130	135	140	145	150	153	156	3 cm刻み
	女混	115	120	123	126	129	132	135	3 cm刻み
棒高跳		270	280	300	310	320	330	340	10 cm刻み

②三段跳の踏み切り位置は、11m00とする。

8 表彰について

①個人表彰は、第1位から第3位に賞状を授与する。

3位までの入賞者は、決勝終了後、入賞者控所（メインスタンド下、中央入口内）で待機し、係員の指示を受ける。表彰は、上半身のみユニフォームを着用すること。

②学校対抗の表彰は、閉会式において男女とも総合、トラック、フィールドの第1位から第3位まで行う。

③得点は、1位－8点、2－7、3－6、4－5、5－4、6－3、7－2、8－1点とする。
ただし、混成競技の得点は、『総合』のみに加える。

9 その他

①やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。

②救急・救護について、応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、メインスタンド下中央付近の医務室に連絡すること。

③記録はメインスタンド下の正面玄関付近に掲示する。

《 連 絡 事 項 》

本大会で、6位以内の入賞者（ただし、走高跳・棒高跳については6名以内）に、四国大会出場権を与える。ただし、男女5000mWおよび混成競技は4位までとする。各種目で四国大会への出場権を獲得した学校は、メインスタンド下第3会議室の受付（中野）で、四国大会申込関係書類を受領すること。